

統計シンポジウム（於岡山市、2008年11月12日）でフロアから出された意見
（いずれも自治体関係者、事後的なヒアリングによる補充を含む）

2008年12月1日

大守 隆

統計調査間の重複

地方では大きな事業所は各種調査で必ず当たる。その度に事業所名、従業員規模など基礎的な項目を記入するのは煩雑。

調査事項にも（細かく見ているわけではないが）重複が残っているのではないかと？

広報の必要性

統計調査の意義について業界団体やその県支部を通じてよりPRする必要（県庁ともタイアップして）があるのではないかと。「我々にも利用価値がある」という意識を持ってもらうことが重要。

定数削減

単価が低かったり超過負担が発生したりという問題ももちろんあるが、それに加え、県独自の「聖域無き定数削減」の影響を受けて、必要な人員を確保することもままならない状況。この問題の解決策も考える必要がある。

自治体の自由なマネジメント

現在の法定受託事務は、効率よりは「決められたとおり実施する」という性格が強い。交付金のような形で一括してもらえればマネジメントにより効率化する余地はある。この場合、首長が統計を軽視すれば、他分野にリソースが流用され、専任職員が確保できなくなるといったリスクはあるが、首長の見識を疑いだしたらきりが無い。

調査員制度の見直し

調査員は高齢化が進み、手当でも少ない中で、若手の補充がままならない。いずれ厳しい状況になることが予想される。もっと民間委託を広げ、民間の業界を育成していくという方向性が望ましいのではないかと？

- 以上 -